

耐え難い激痛が走る尿路結石、日本人の 5%が 一度は経験 腎盂腎炎の併発は重症化リスク

ものまね芸人の山本高広さん（50）は昨年 8 月、尿路結石の疝痛（せんつう）（周期的な激しい痛み）で救急受診しました。痛みは一時的に軽快したものの、数日後に腎盂（う）腎炎を併発し、緊急手術を受けたと報告しています。

尿路結石や膀胱（ぼうこう）炎など尿路感染症は一般外来や救急の現場でよくみえます。ほとんどが痛みをとり、感染を抑える薬を投与すれば、よくなります。しかし、ときに緊急で入院治療をしないと命にかかわることがあります。どんな状況に注意が必要で、予防はどうすればよいのでしょうか。

68 歳の主婦 A さんは、今年 7 月中頃、軽度の発熱と左腰背部痛で近所の医院を受診し、解熱鎮痛剤でよくなりました。3 日後、39 度の高熱と腰背部痛に加え、意識がもうろうとし、救急車で総合病院に搬送されました。左の腰背部を軽くたたくと痛みが響きます（叩打（こうだ）痛）。

CT 検査で左の腎臓の出口に 7 ミリ大の結石が嵌頓（かんとん）し、水腎症と腎臓周囲の炎症を確認。尿路閉塞（へいそく）を伴う結石性腎盂腎炎による敗血症と診断され、緊急入院となりました。

集中治療室（ICU）に入室し、カテーテルによるドレナージ手術と抗菌剤で 4 日後には解熱し、2 週間の抗菌剤治療を続けました。

尿路感染症は多くの人を経験する病気で、とくに女性は半数が生涯に一度は罹患（りかん）するといいます。しかも初回感染後 6 カ月以内に 25% の人で再発します。女性に多いのは、尿道の解剖学的特徴のためです。

ただ、尿路感染症でも女性に多い膀胱炎は排尿痛と頻尿、残尿感程度で、発熱はほとんどみられません。38 度を超える発熱を伴う場合は、同じ尿路感染症でも腎盂腎炎を疑います。

腎盂腎炎はほとんどが膀胱からの上行性感染で、悪寒・発熱、腰背部痛に加え、ときに悪心や嘔吐（おうと）を伴います。病側背部の叩打痛は特徴的です。

尿路結石や糖尿病などの基礎疾患がある場合は、複雑性腎盂腎炎と呼びます。結石は腎盂腎炎のリスク因子であり、結石が存在する限り再発を繰り返し、時に重症化します。

■食生活、水分摂取が関係

尿路結石による閉塞性腎盂腎炎は最も多い重症の尿路感染症です。多くは適切な治療で軽快しますが、約 20%で菌が全身にまわり菌血症となります。さらに進み、敗血症性ショックになると予後は不良です。

尿路結石は日本人の 5%以上が生涯に一度は経験する病気です。発生部位は上部尿路の腎臓内がほとんどです（腎結石）。結石の発生には年齢や性別、遺伝や食生活、水分摂取が関係します。女性に比べ男性に 2〜3 倍多い病気ですが、最近では女性と 60 代以降の高齢者での増加が目立ちます。

無症状の小さな腎結石を積極的に治療するかどうかは議論があります。5 ミリ前後であれば半分ほどが自然排石されます。しかし腎盂腎炎を併発した場合は治療します。

治療は、迅速に痛みを止めて、抗菌剤を投与します。複雑性腎盂腎炎であれば、菌の感受性を確認し、2 週間ほど抗菌剤の投与を続けます。閉塞性腎盂腎炎の場合は、緊急で閉塞を解除するドレナージ手術を行います。腎盂腎炎が治まった後に、結石を処理します。

尿路結石や腎盂腎炎の再発予防には、十分な飲水（1 日 2 リットル以上）とバランスのとれた食事を摂取し、陰部を清潔にして、適度な運動と肥満の予防が大切です。